

佐賀東部地域森林計画（案）の概要

佐賀県 農林水産部 森林整備課

撮影場所：太良町

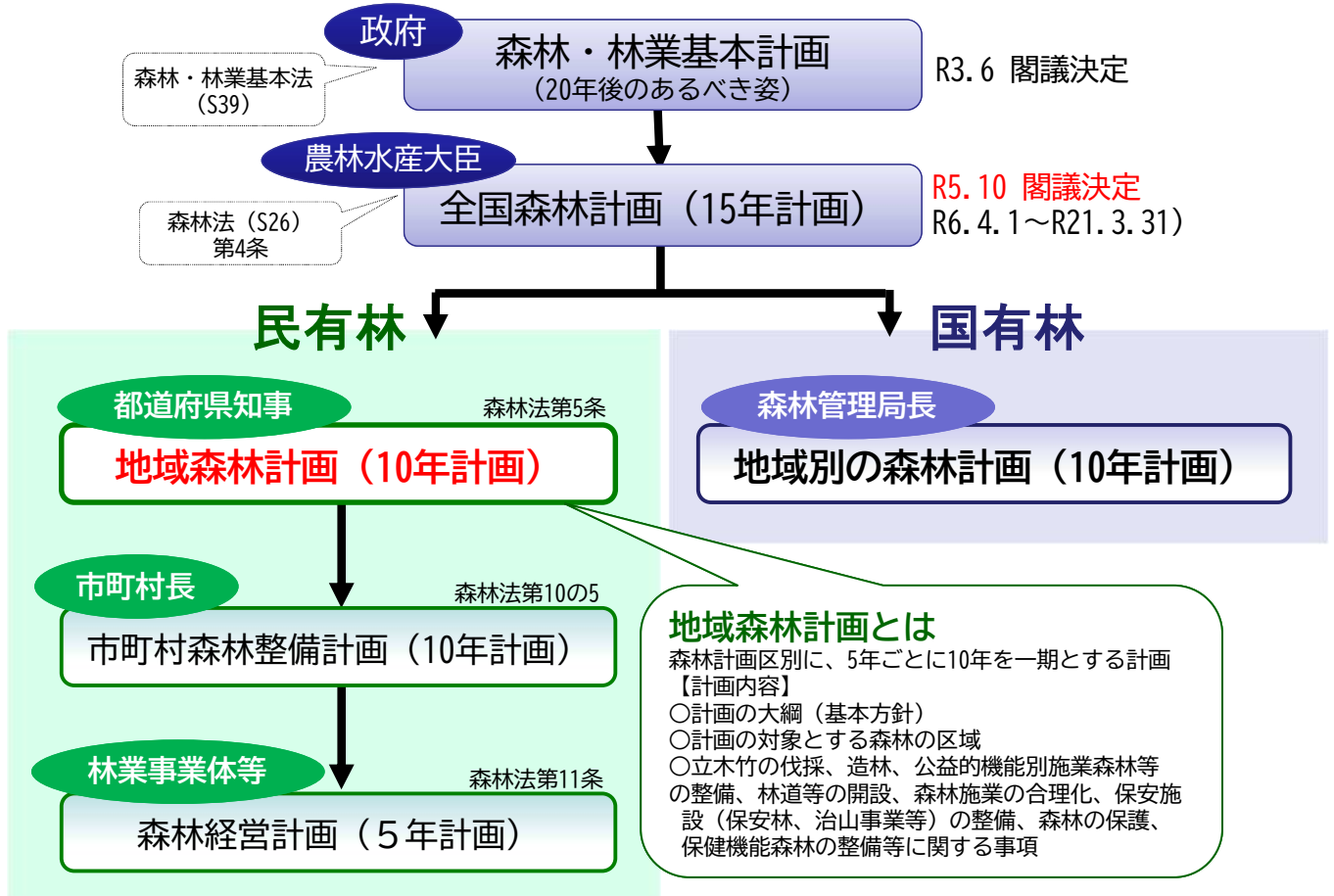
目 次

- I－Ⅰ 森林計画制度の体系
 - 2 地域森林計画の樹立サイクル
 - 3 地域森林計画の位置づけ
- Ⅱ－Ⅰ 計画区の概況
 - 2 計画の対象とする森林の区域
 - 3 計画樹立に当たっての基本的な考え方
- Ⅲ－Ⅰ－① 森林資源の推移
 - Ⅰ－② 森林資源の構成（現状）
 - 2－① 主な計画事項
 - 2－② 森林の立木竹の伐採
 - 2－③ 造林
 - 2－④ 林道の開設その他林産物の搬出
 - 2－⑤ 森林施業の合理化
 - 2－⑥ 保安施設（保安林の指定・解除）
 - 2－⑦ 保安施設（治山事業の実施）

【参考】用語の解説

I-1 森林計画制度の体系

1



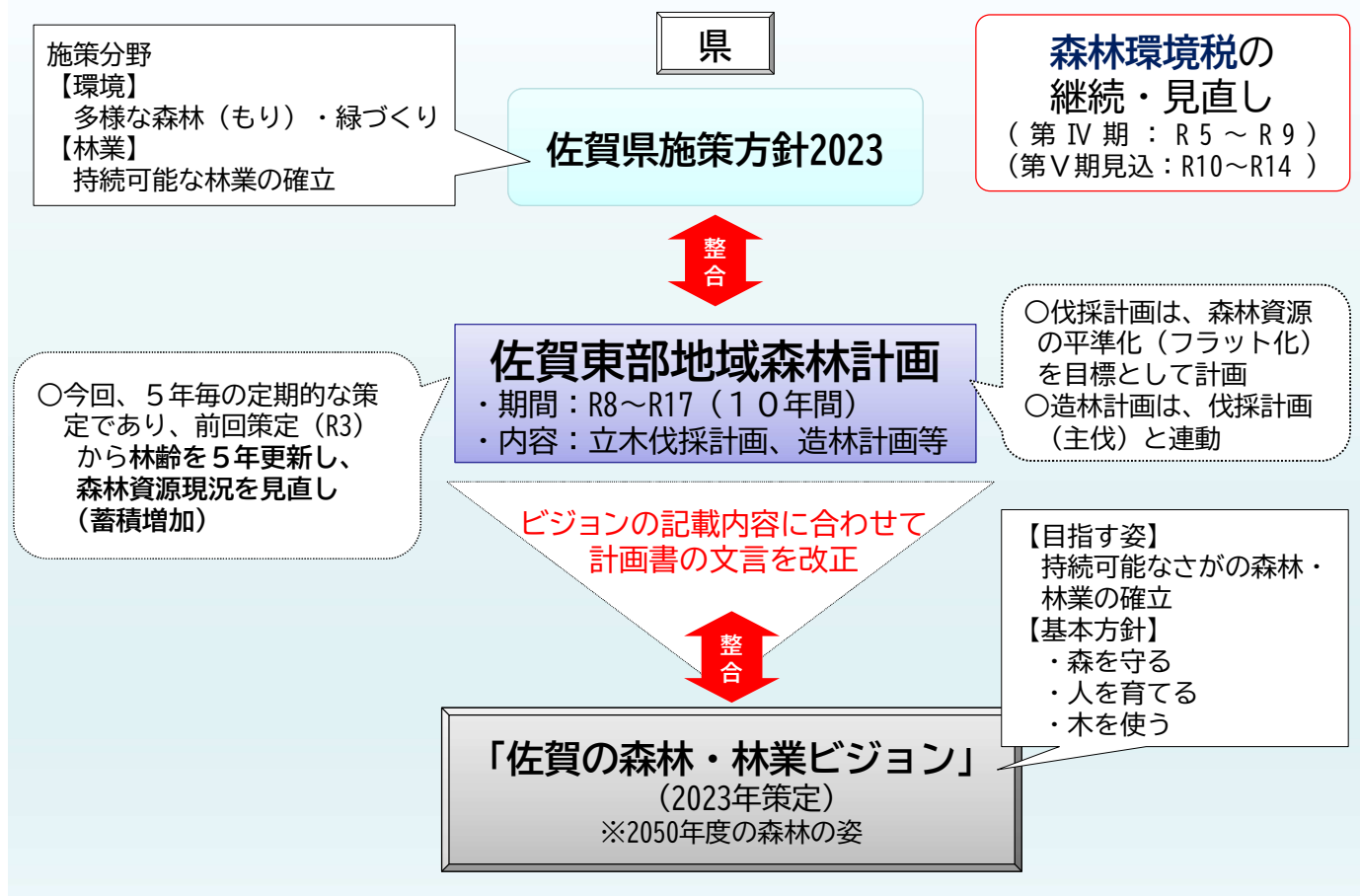
I-2 地域森林計画の樹立サイクル

2

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
全国森林計画				樹立	前期（R6～R10）					中期（R11～R15）					後期（R16～）		
										（樹立予定）							
佐賀東部（県）	樹立	前期(R3～R7)					後期(R8～R12)										
		変更	変更	変更	変更	樹立	前期(R8～R12)					後期(R13～R17)					
佐賀西部（県）			樹立	前期(R4～R9)					後期(R10～R14)								
		変更		変更	変更	変更	（樹立予定）										

I-3 地域森林計画の位置づけ等

3



II-1 計画区の概況

4

■森林計画区名：佐賀東部地域森林計画区（佐賀市ほか7市、8町）
佐賀市、鳥栖市、多久市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町、みやき町、上峰町、大町町、江北町、白石町、太良町

■地域の概況

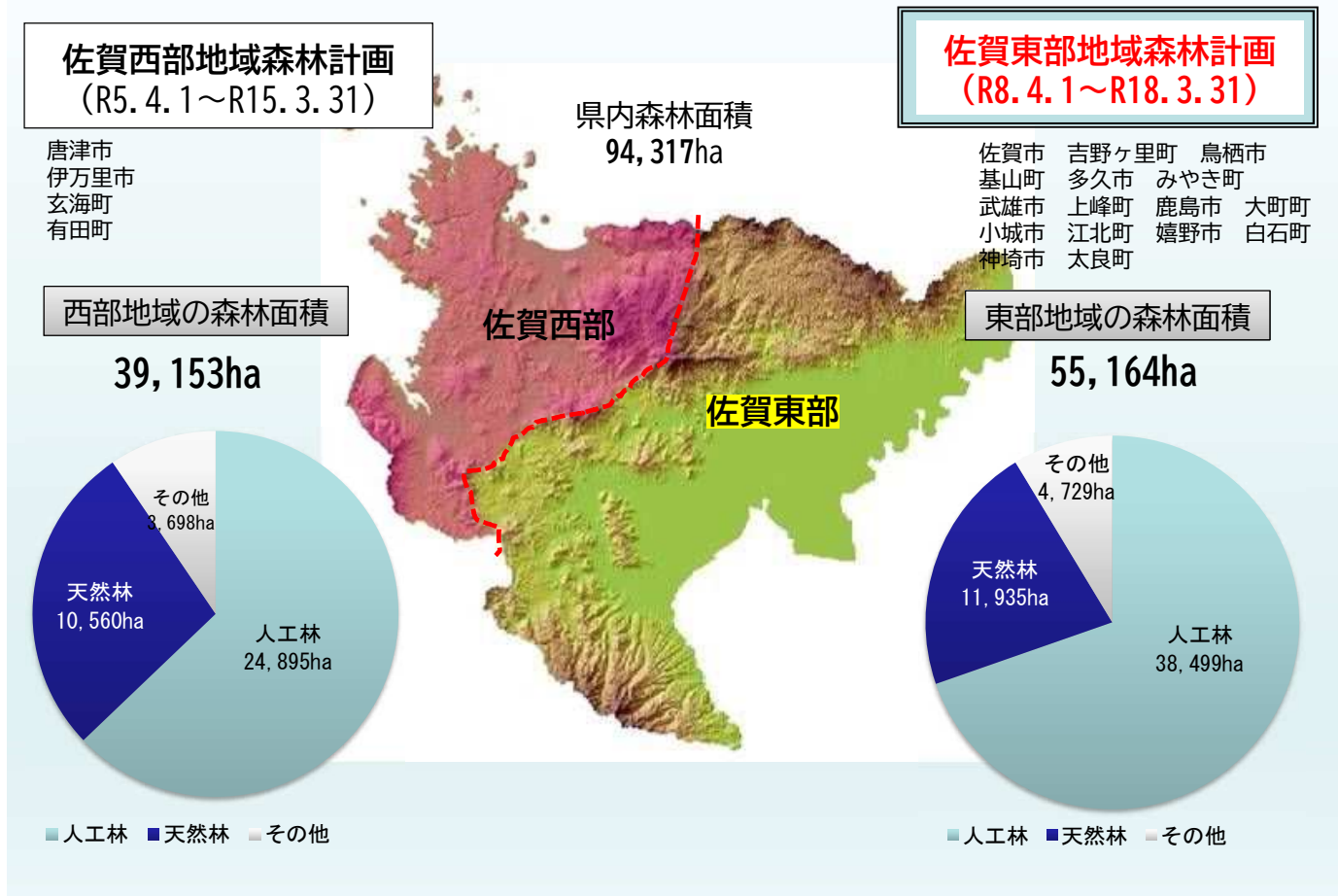
主な山地等：（福岡県境）九千部山、脊振山
（中部）天山、八幡岳、黒髪山、神六山
（長崎県境）多良岳、経ヶ岳

主な河川：（1級河川）筑後川、嘉瀬川、牛津川、六角川
（2級河川）塩田川、鹿島川、系岐川

気象〔5年間平均〕：（気温）佐賀市：18.0℃、嬉野市：16.3℃
（年降水量）佐賀市：2,247mm、嬉野市：2,592mm

Ⅱ－２ 計画の対象とする森林の区域

5



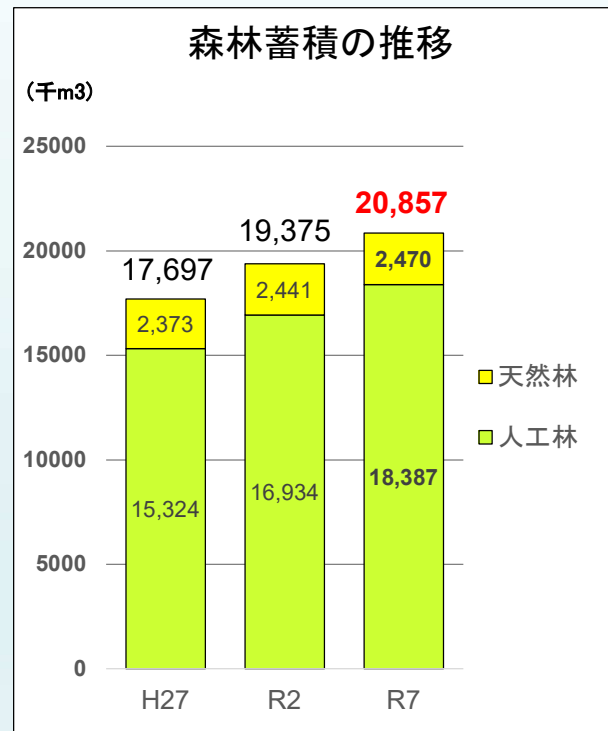
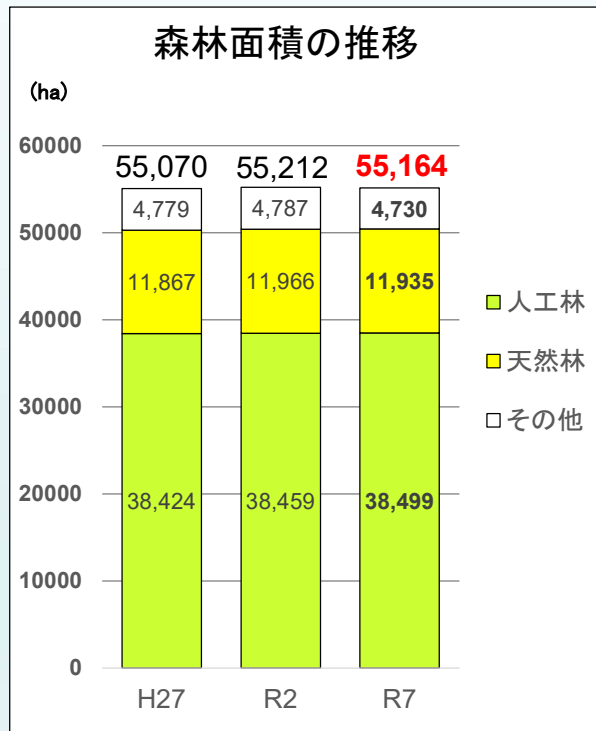
Ⅱ－３ 計画樹立に当たっての基本的な考え方

6



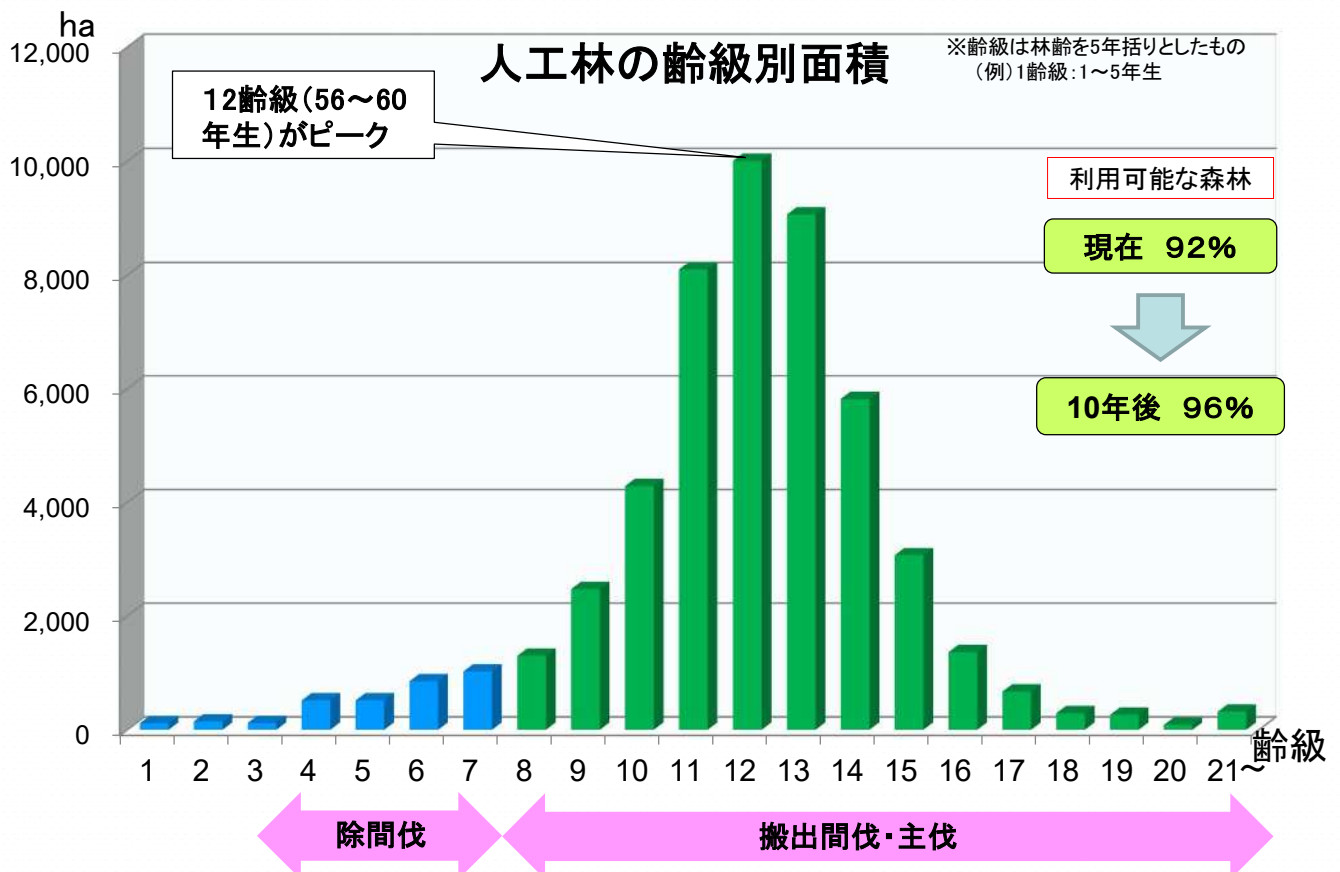
Ⅲ－１－① 森林資源の推移

7



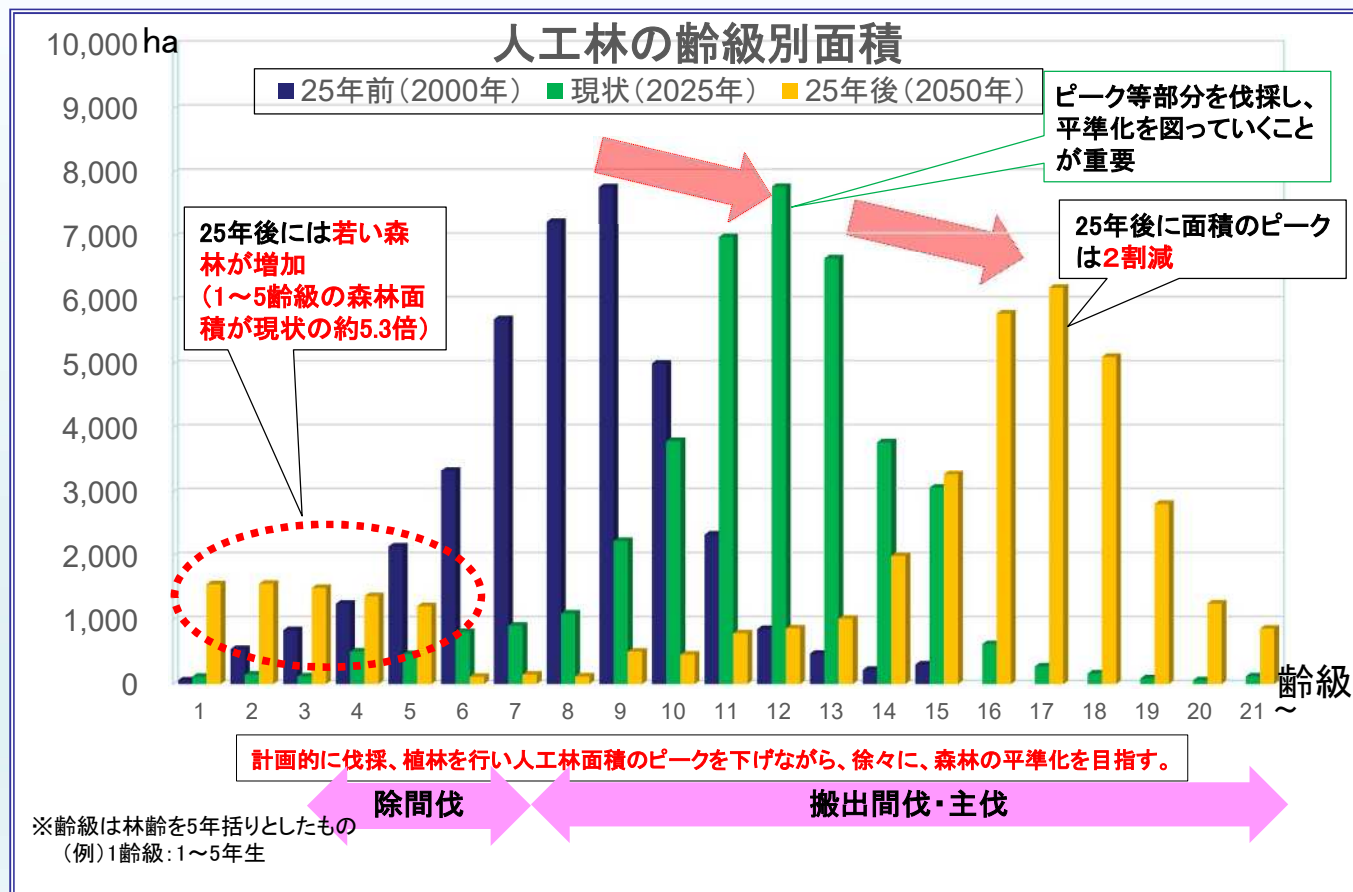
Ⅲ－１－② 森林資源の構成

8



Ⅲ－1－③ 森林資源の構成

9



Ⅲ－2－① 主な計画事項

計画事項

10

・ 下記事項等について、10年を一期として計画

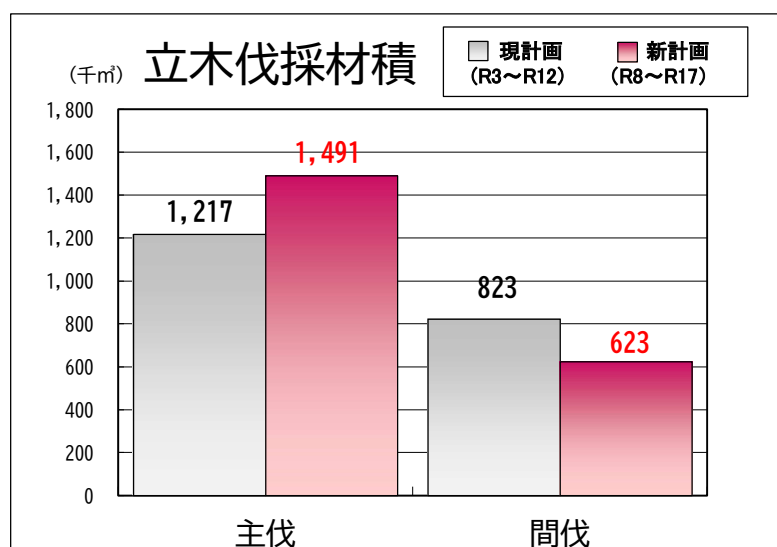


Ⅲ－２－② 森林の立木竹の伐採

計画事項

11

- ・全国森林計画や今後の施策推進等を考慮し、主伐及び間伐計画量を決定



- 主伐量は、充実した森林資源（齢級構成）の平準化を目指して、皆伐を推進していくこととし、現計画の約1.2倍で計画
- 間伐量は、今後の主伐と合わせた全体の伐採量を考慮し、現計画から約24%減で計画



皆伐



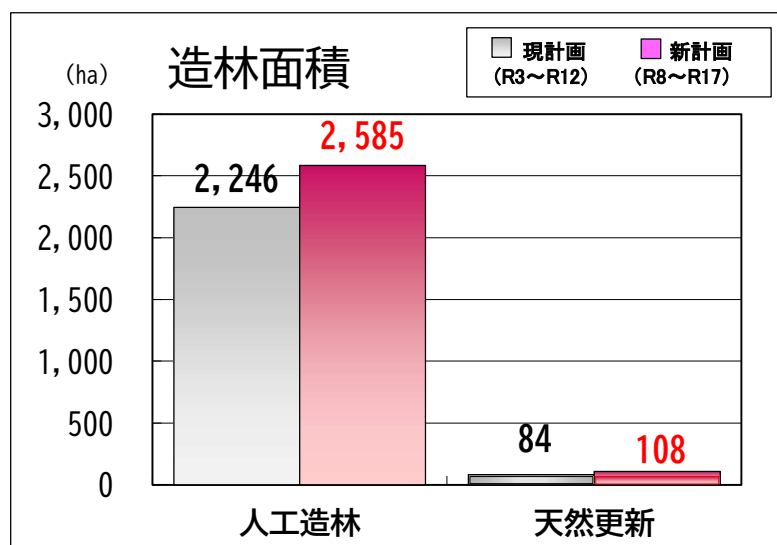
搬出間伐

Ⅲ－２－③ 造林

計画事項

12

- ・伐採(主伐)計画量を考慮のうえ、造林の計画量を決定



- 人工造林については、伐採（皆伐）の推進に伴い増加する計画
- 天然更新については、天然林の伐採量が少ないことから、現計画程度

※天然更新とは、種子の発芽や樹木の切株からの発芽（萌芽）の成長による伐採跡地の更新方法



針葉樹の造林



広葉樹の天然更新

Ⅲ－２－④ 林道の開設その他林産物の搬出

計画事項

13

- ・林道網の整備は骨格的な林道から支線的な林道を主体に整備
- ・トラック運搬のための林道整備から、搬出間伐促進のための高性能林業機械の走行を想定した「森林作業道」の整備にシフト



林道の開設

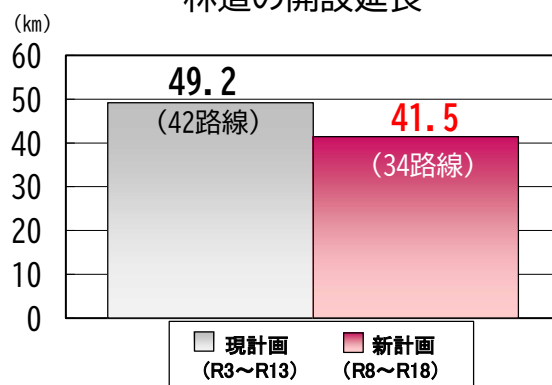
【林道の整備延長及び林道密度】

(単位 上段：km、下段（ ）：m/ha)

区分	R7末 (現状)	R18 (10年後)
林道	739.4 (13.4)	780.9 (14.2)

○基幹路網となる林道については、林道密度を10年後に14.2m/haまで延ばすことを目標

林道の開設延長



Ⅲ－２－⑤ 森林施業の合理化

計画事項

14

流域内の公共団体、森林・林業・木材産業関係者の合意を図りつつ、地域の実情に応じ推進

- ・森林経営の受委託による森林の経営規模の拡大（施業集約化の取組方針を明確化）
- ・林業に従事する者の養成及び確保
- ・作業システムの高度化（高性能林業機械の導入の促進）



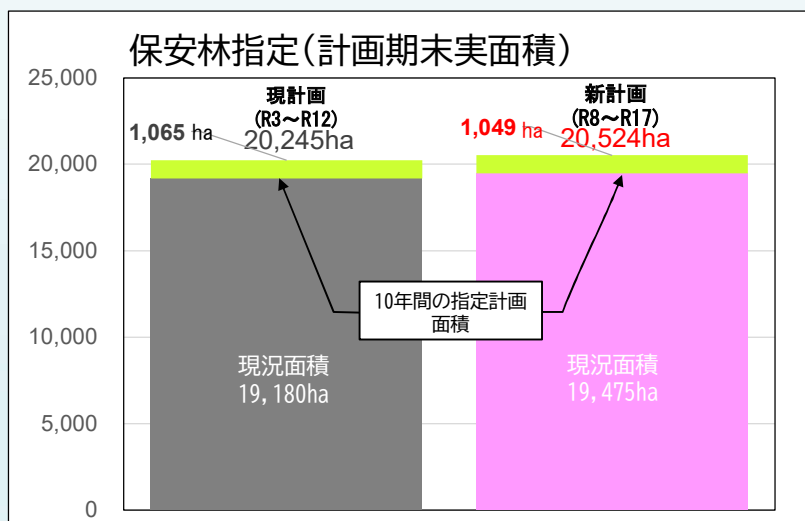
森林作業道作設の研修状況



高性能林業機械による作業状況

保安林として管理すべき森林

- ・ 水源のかん養、土砂流出の防備、公衆の保健等を目的に、保安林の指定を積極的に推進する。また、錯誤により指定された保安林を計画的に解除する

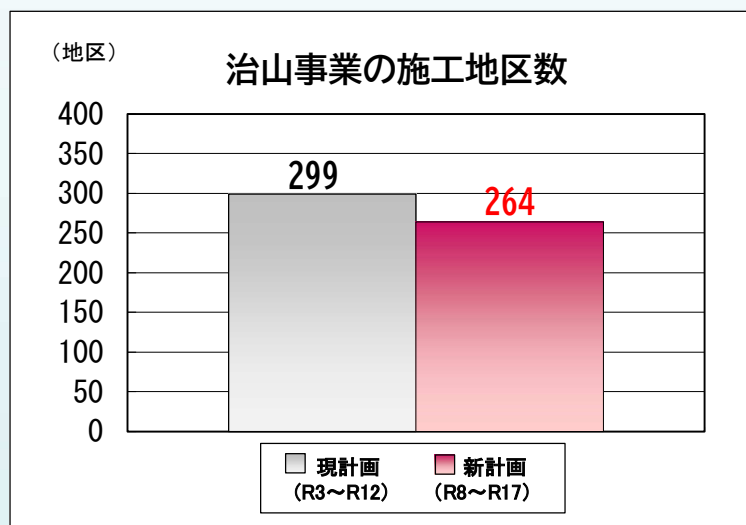


水源涵養保安林

- ・ 令和15年度末の国割当量を勘案し、計画期間内（R8～R17）の計画量を算出計画（※今後10年間で1,050ha指定、79ha解除）

実施すべき治山事業

- ・ 山地災害の激甚化・頻発化を踏まえ、第1次国土強靱化実施中期計画等に基づき、森林整備・治山対策を推進



(被災後)



(復旧後)

山腹崩壊の復旧状況

- ・ 治山事業の施工地区数は、山地災害危険地区の危険度が高い箇所を優先して計画

立木竹：土地に生育する個々の樹木や竹。

針葉樹：細くとがった葉を持つ樹木（スギ、ヒノキ等）。

広葉樹：扁平な葉を持つ樹木（クスノキ、クヌギ等）。

林齢：森林の年齢。人工林では苗木を植栽した年度を1年生とし、以後、2年生、3年生と数える。

齢級：森林の林齢を5年の幅で括ったもの。1～5年生を1齢級、6～10年生を2齢級と数える。

民有林：国有林以外をいい、個人、会社等が所有する私有林、県や市町等が所有する公有林に区分される。

人工林：人為を加えて成立した森林。

天然生林：自然の推移に委ね、主として自然の力を活用することにより、保全・管理されている森林。

保安林：水源の涵養等特定の公共目的を達成するため、国や県によって指定される森林。

要整備森林：保安林のうち、手入れが行われずに荒廃し、機能低下が懸念される森林。

治山事業：国土の保全等目的として、荒廃山地等の復旧や森林の維持・造成を行う公共事業。（保安林が対象）

環境林：水環境保全や景観保全などの視点で、多様な森林づくりを進めるために県が独自に選定した森林。

保健機能森林：森林浴や森林レクリエーション活動など森林の有する保健機能の増進を図るべき森林。

主伐：次の世代の森林の造成を伴う森林の一部又は全部の伐採。

皆伐：一定範囲の樹木を一時に全部伐採する主伐の一種

択伐：森林内の樹木の一部を抜き切りする主伐の一種。

伐期：主伐が予定される時期。

間伐：樹木の混み具合に応じて育成する樹木の一部を伐採（間引き）し、残存木の成長を促進する作業。

搬出（利用）間伐：間伐材を利用するために林外に持ち出す間伐。

切捨間伐：採算が合わないことから、間伐材を林内に残置する間伐。

人工造林（植林）：苗木の植栽、種子の巻き付け、さし木等の人為的な方法により森林を造成すること。

天然更新：種子の発芽や樹木の切株からの発芽（萌芽）の成長による伐採跡地の更新方法。

下刈：植栽した苗木の生育を妨げる雑草等を刈り払う作業。

森林整備：森林施業とそのために必要な施設の作設、維持等を通じて森林を育成すること。

森林施業：目的とする森林を育成するために行う造林、保育、伐採等の一連の森林に対する人為的行為を実施すること。

施業の集約化：林業事業体などが隣接する複数の森林所有者から、路網の作設や間伐等の施業を受託し、一括して行うこと。

林道：木材などの林産物を運搬するために森林内に開設された道。

森林作業道：林道を補完し、間伐等の作業を行うために作設される簡易な構造の道。

高性能林業機械：従来のチェーンソー等に比べて、作業効率等の面で優れた性能を持つ林業機械。

素材生産：立木を伐採し、枝葉や梢端部分を取り除き、丸太にする工程。

集成材：板材（ラミナ）を繊維（木目）の方向が併行になるように、長さ、幅、厚さの各方向に接着した製品。